外科的（皮ふ）感染症

皮ふは、外部からの直接刺激や皮脂腺の機能亢進、その他の多くの因子（年令、性、食物、環境、温度、ホルモン等）によって様々な状態を引き起こします。その際、もともと皮ふに住んでいる細菌によって感染を起こす事があります。

特に夏場は汗や直射日光の影響が多く注意が必要です。私たちが日頃よく見る皮ふ感染症には次のようなものがあります。

毛のう炎   せつ（おでき）   よう   面ちょう   蜂巣炎   粉瘤   など

毛のう炎は毛穴の皮脂腺の細菌感染で、皮ふのぶつぶつを伴い数日以内にうみが排出されると治癒します。治療は患部に触れない事と抗生物質の内服です。まぶたにできる麦粒腫（ものもらい）もそのひとつです。

毛のう炎が更に広がって毛のう、皮脂腺が壊死となり周辺の組織に及んだものを「せつ」と言います。「よう」は「せつ」が更に進行したもので、直径10センチにも及ぶ事もあり、しばしば悪寒やふるえを伴う発熱を認めます。

時に敗血症、骨髄炎等をおこすこともあり注意が必要です。安静と抗生物質の投与が基本ですが、切開してうみを出す必要がある場合もあります。

顔面に発生したおできを「面ちょう」と呼びます。顔には豊富な血管があり、特に上嘴唇、鼻部では髄膜炎を起こすことがあるので注意が必要です。

蜂巣炎は皮下の炎症で広範囲の腫脹・発赤・疼痛を認めます。これも局所の安静、そして抗生物質の内服、皮下にうみがたまる場合は切開します。

粉瘤は臭気の強いかゆ状の物質が皮ふの下の袋にたまる病気です。耳介や背中等の皮脂腺の豊富な場所に出来やすく、大きくなるとこぶし大にもなります。治療は摘出が基本です。局所麻酔をして袋を残さずに完全に取りきる事が大事です。感染している例では他の感染症と同様です。

どれも放置すると重症化する場合がありますので、安易な自己治療はせずに、医師に相談してください。